

三学会（日本産婦人科・新生児血液学会、日本心臓血管外科学会、  
日本輸血・細胞治療学会）合同シンポジウム  
「危機的大量出血：フィブリノゲンをどう使う」

第27回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会長による取りまとめ

本日、第27回日本産婦人科・新生児血液学会（福島県福島市）で開催された三学会合同シンポジウムでは、「後天性低フィブリノゲン血症を伴う大量出血」の問題について、真摯に討議を重ねた。

特に産科領域と心臓血管外科領域において低フィブリノゲン血症が重大な病態に関与し、生死にかかわっていることが判明し、国民にとって急いで対策をとる必要があることを共有した。

ここに三学会合同シンポジウムは「後天性低フィブリノゲン血症を合併し、出血のためこの製剤が必要な患者さんには、安全性が確立されているフィブリノゲン製剤が早急に使用できるようにすべきである」と宣言する。

平成29年6月3日  
学術集会長  
大戸 斉